

# 間伐材活用し特産品

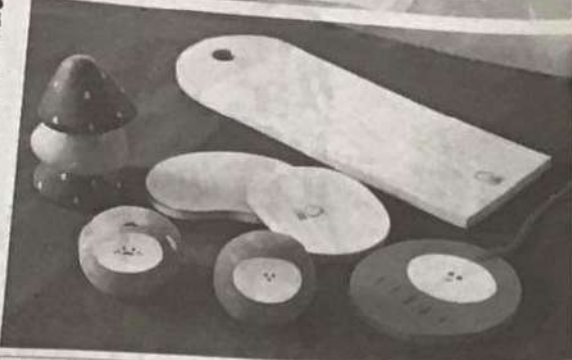
## 王寺のNPO 障害者雇用や森林保全

「こころがわいなるまに、手作りのコースターや積み木」。王寺町で障害者福祉サークルを手がけるNPO法人「なないろサークル」の団員たちが、間伐材などを使った特産品作りに取り組んでいる。地元で出た木材が、あたたかみのある商品に生まれ変わり、障害者雇用にもつながっている。売り上げの一部は町内の森林保全にも活用される。

(浜井孝幸)



●出来上がった木のボードやたるまを手につけるの団員ら(王寺町) ●団員らが作ったたるま(手前)や積み木(左奥)などの特産品



王寺町と取組むが、作業用の工房で、メンバー一定した木材を回転させて削る里山「開業の森」にある「森下紗希さん(18)が、固る旋盤で、聖徳太子ゆかり

鉄生駒駅前(生駒市) わりに大豆ミートを原素材に計8台設置し、冷凍餃子販売を開始。薄いパリパリとした味わいを楽しめる。の皮の昔ながらの本格的とができる。

赤膚焼の商品を説明する古瀬さん(右)と、説明を聞くへネットさん(奈良市で)

「あった」と喜んだ。シエトロ奈良所長の木川

の王寺町内の達磨寺にちなんだたるま作りを見せてくれた。

指導役の木工職人が見守る中、森下さんが高速回転する木に刃物を押し当てていく。「もう少し刃を立てて削ろうか」、職人のアドバイスに森下さんが手に力を込める。角材は徐々に円柱になり、まるまるとしたたるまの体が姿をあらわした。

事業所で色つけをしたたるまやコースター、積み木などは4月からNPOのホームページで販売しているほか、一部は県内のカフェなどでも購入が可能だという。

王寺町観光協会が企画した「OJICHO WOOD」という取り組みで、町にある明神山などに出る杉やヒノキなどの間伐材や危険木を有効利用して特産品を作り、売り上げの5%を森林の清掃や植樹など保全にあてる仕組み。同協会担当者は「土産作りや観光振興にくわえて、障害者福祉や森林保全にもつなげた」と意気込む。



乃宿酒造の新蔵(葛城町)

製作や販売を担うないろサークルには、約20人の知的障害や発達障害を持つ「団員」が集まる。それぞれできることは違いますが、

作業を分割することで、メンバーが長所をいかして製作に関わることができるよう工夫しているという。

森下さんは「色つけの時はムラが出ないように意識しています。作るのが好きですし、楽しいからやりたくなりますね」と話す。

代表の中川直美さん(42)は「森を通して地域福祉に貢献できたらいいですね。山も人も優しくまわっていかうな取り組みにしたいから」と期待する。

サービングボード(税込み1715円)、たるま(1200円)など。問い合わせは同町観光協会(0745・33・6668)。

期待した。同社によると、施設の老

5月有効求人1.24倍

奈良労働局は、5月の県内有効求人倍率(季節調整値)が前月と変わらず1.24倍だったと発表した。近畿平均(1.13倍)を上回った。

5月の有効求人数は、前月比0.4%増の2万3169人。有効求職者数は、同1.2%増の1万8759人だった。

新規求人数は同9.9%減の8107人。業種別で

### 1歳おめでとう



池田 葵です  
2021年7月13日生  
明るく元気に育ってね(祖父母) 生駒市

### 読売新聞オンライン

読者会員登録で大阪本社版朝刊の各地域版がカラーでご覧いただけます

を果たせず大蛇に化け、淵に

# 里山の間伐材 七色変化

## 王寺・知的障害者ら集うNPO

里山から出た間伐材をいかした町おこしに、知的障害者らが集う王寺町のNPO法人「なないろサーカス団」が挑戦している。積み木、だるまなどを作って販売し、売り上げの一部を森林の保全にいかしていく。

JR和歌山線の畠田駅近くの住宅街。なないろサーカス団が入る施設で、団員くりの「翼になりたい」との森下紗希さん(18)が木工品に色づけし、森川浩和さん(37)が焼き印を押している。

里山をイメージした緑色の積み木、手のひらサイズのだるま、スイーツを並べるトレー、グラスを置くコースター。どれも手づくりのぬくもりが感じられる。森川さんは「力加減がむずかしい」と額の汗をぬぐう。

なないろサーカス団は2014年に発足し、15年にNPO法人になった。10代〜60代の団員約20人が通っている。



廃材や間伐材で積み木などを作ったNPO法人「なないろサーカス団」の団員ら。いずれも王寺町畠田3丁目



NPO法人「なないろサーカス団」が手がけた作品。王寺町内の廃材や間伐材で積み木などをつくった

## 積み木など製作→売り上げの一部 森林保全へ

(42) 菓削師やガラス細工の職人、レストランのオーナーなどさまざまな職種スタッフが活動をサポートする。

その活動は、町内の自然と一体となっているのが特徴だ。

近くの里山「陽菜の森」でヤギや烏骨鶏を飼い、イモやシイタケ、小松菜、ホウレンソウづくりに励む。採れた野菜は団員のランチの材料になる。平日の昼前から夕方まで、聖徳太子の愛犬とされる「雪丸」をデザインした便箋や付箋などの文具、町内の達磨寺にちなんだ、だるまも作っている。

今回の間伐材を使った取り組みは町観光協会が後押しした。昨年度から里山の保全をめざし、町内の木材で特産品をつくる「OJICHOWOOD」を始めた。大阪と奈良の府県境にある明神山などから間伐材や廃材を集め、特産品として売り出す試みだ。

製作、販売をなないろサーカス団が担うことになった。スタッフの河田佳奈子さん(42)は「里山の保全と特産品による観光振興、団員の働きがい。その三つを一度にかなえたい」と話す。

積み木やトレー、コースターの販売は今年20日から、なないろサーカス団のホームページ、県内各地のカフェなどで始まる。売り上げの5%は町の森林保全に活用される。問い合わせは町観光協会(0745・33・6668)へ。

## 極楽浄土へ 輝く来迎橋

式が、当麻の中將事、で、新型コに行わ夕方金色のは二二を制限「迎橋」へ。中き返し一夜で式は、極楽浄でも特たち



金色の面の「舞